

令和4年度 日野市立仲田小学校経営重点計画				自己評価シート			
★学校の教育目標				◎すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子			
★目指す学校像（ビジョン）				★重点計画の概要 「全てのいのちを大切に、一人一人の可能性を伸ばしていく学校」 ① 児童一人一人が、いのちの尊さや素晴らしさ感じ、考えを深め、自他のいのちを大切にすることを児童を育む教育の推進 ② 確かな学力の定着と一人1台の端末を活用したGIGAスクール構想の推進。 ③ 地域とともに創る教育の推進。 ④ からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上の推進。 ⑤ 多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育の推進。			
【めざす児童・生徒像】							
【めざす学校像】							
【めざす教師像】							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策				
				取組指標		成果指標	
いのち	○児童一人一人が、いのちの尊さや素晴らしさ感じ、考えを深め、自他のいのちを大切にすることを児童を育む教育を推進する。	●「いのちの尊さ」を実感し、自他のいのちを大切にしようとする思いや考えをもつことができるようになる。 ●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、児童のよりよい成長を目指す教育を実践する。 ●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。	◎各学年の年間指導計画に基づき、行事、各教科等で計画的に「いのちの尊さ」を意識した取組を行い、目指す児童像を実現していく。 ◎「特別の教科 道徳」の授業を年間計画に沿って意図的・計画的に実践し、考え、議論する道徳授業を通して、自立した人間として、他者とともにによりよく生きるための道徳性を養う。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
			◎ふれあい月間の取組や、いじめアンケート等を活用していじめの早期発見に努め、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラー等と連携しながら組織的に対応する。 ◎避難訓練、安全指導、安全点検、通学路点検、交通安全教室、自転車安全教室、セーフティ教室、防犯教室、SOSの出し方教室、薬物乱用防止教室、情報モラル指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
学び	○確かな学力の定着と一人1台の端末を活用したGIGAスクール構想を推進する。	●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、自ら課題を見付け、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力の育成を図る。 ●「主体的、対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。	◎授業のねらいを明確にし、ねらいを達成していくために導入、発問、授業構成、教材準備、板書等に創意工夫を図る。 ◎基礎的、基本的な知識・技能の定着のために、習熟の程度に応じた指導や補習学習、繰り返し学習等、一人一人の児童の実態に応じた指導を行っていく。 ◎放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。 ◎各教科の「見方・考え方」を意識した学習を展開し、児童が自分の考えをもち、話し合い、深め合う、課題解決を意識した学習活動の充実を図る。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
			◎研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現～ICTの効果的な活用を通して～」に向けた研究を推進する。一人1台端末を活用した個別最適化学習を推進し、対話を通して授業改善に取り組む。 ◎学習の基盤となる「言語能力」「端末を活用した情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習の充実を図る。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
地域	○学校、家庭、地域社会が協働し、地域とともに創る教育を推進する。	●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用しながら豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する学びを創意工夫する。 ●家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。 ●児童が地域に出て、地域の方々と活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、自分の生き方を考えたりしていけるようにする。	◎児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を積極的に活用した教育活動を企画し、推進する。 ◎児童が学ぶ楽しさ、おもしろさを実感できる体験学習等ができるように、地域の自然環境やボランティア、専門家等の人材活用を図り、創意工夫した授業実践を行う。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
			◎開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動、お知らせを学校便りや学年便り等でまとめ、Home&Schoolやホームページで発信する。 ◎児童が地域やPTAのボランティア活動に参加する経験を通して、自己有用感を感じることができるようにする。 ◎児童が地域の人とともに活動することで、社会性や地域に対する郷土愛を育む。「蚕の飼育体験」「桑の葉を使った紙漉き体験」「多摩川でのアユの放流体験」等に取り組む。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
健康・体力	○からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上を推進する。	●オリ・パラレガシー教育を推進し、体育授業の充実を図る。 ●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。	◎意図的に多様な運動を一定期間重点化し、持久走ウィーク、縄跳びウィーク、アクティブタイム等、日頃から児童が運動に親しむ機会を設定し、日常的に運動に親しみ、体力向上及び健康増進を図る。 ◎家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。 ●全ての児童が参加し、分かる喜びを実感できる授業の創造に努める。	◎支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。 ◎授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。 ◎パラリンピック選手を講師に招いたインクルージョン教育を推進する。	4	全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	4	90％の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				3	90％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	3	85％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				2	80％の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。	2	80％以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。
				1	具体的方策を意識して取り組んだ教員が80％未満だった。	1	児童アンケートで肯定的な評価をした児童が80％未満だった。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。